

共同利用・共同研究

平成6年後期(7~12月)国立天文台 岡山天体物理観測所の共同利用観測の公募

以下のとおり公募いたします。詳細は、下記提出先または観測所へお問い合わせ下さい。

1. 共同利用機器：188 cm 望遠鏡, 91 cm 望遠鏡, 65 cm 太陽望遠鏡
2. 利用期間：平成6年7月~12月
3. 申込資格：国・公・私立大学および国・公立研究所等の研究者、又はこれに準ずる者(大学院博士課程在

学者を含む。)

4. 申込方法：規定の観測申込書により2部提出
5. 申込締切：平成6年4月15日(金)必着
6. 提出先：〒719-02 岡山県浅口郡鴨方町本庄
岡山天体物理観測所共同利用係
電話 08654-4-2155
封筒に「岡山観測申込書在中」と朱書のこと
7. 機器一般の問合せ：
〒719-02 岡山県浅口郡鴨方町大字本庄3037-5
国立天文台岡山天体物理観測所 前原英夫
電話 08654-4-2155 ファックス 08654-4-2360

星空市場

“意見”

早川幸男基金のこと

自然科学は本質的に国際的な学問であるが、研究対象が地球外にある天文学は特に国際性が強い。研究分野は他の学問分野とも密接に関わって多岐に亘り、専門分野の研究者は世界的に見ても数が少ない。日本国内では尚更である。それで日本の研究者は外国の研究者と手紙やファックス、電話やプレプリントで情報を交換しあう。しかし何といっても直接面会して討論するのが一番である。その意味で1992年に早川幸男氏が若手海外学術研究援助基金(早川幸男基金)を提供されたのはまことに時宜を得た措置であった。

私は大学で天文学を学んだにも拘わらず、非才のためついに専門の天文学者になれずに終わった。しかし天文学が私の人間形成に果たした役割は測り知れない。天文学のおかげで今の私が在ると言ってもよいくらいである。この恩に報いるため、かつ私の為し得なかった天文学への貢献を前途有望な若手研究者に果たしてもらうため、手持ちの少額金をこの基金に加えさせていただくことにした。この基金によって渡航した若手研究者が海外でのびのびと観測に従事し、研究仲間と盛んに討論しているさまを思い浮かべると、私はほのほのとした満足感に浸されるのである。 佐藤明達(東京都)

“意見”

天文月報1993年11月号 天体列伝(2) アンドロメダ

大星雲M31の記事中我々の銀河系を「M0」と命名してはどうかという家 正則氏のご提案は、今迄誰も気付かなかったすばらしい着想と思います。数ある銀河の内、めばしいものに皆Mナンバーがついているのに我々にとって最も重要な私達の銀河に科学的公式名称がないという事は考えてみれば随分片手落ちな事でした。「私達の銀河」「我々の銀河系」等長い呼び名で他の銀河に比べて別格扱いするのも結構な事とは思いますが「M0」と記号化する事が出来れば単に表記を簡略化出来るだけでなく他の銀河と比較する為の表、グラフ等に非常に便利に使えるし数式の中に取り入れる事も可能になり我が「M0」の数量的研究上極めて有効と思われます。我が銀河系は我々自身が住む銀河であるが故に他のすべての銀河に君臨するゼロ・ナンバーをつけるのにふさわしい銀河であります。これは是非実現したい素晴らしいご提案であると思います。 杵鞭充千男(神奈川県)

編集部より

4月号より天文月報の紙面体裁を若干変更し、以下のよう致します。このほか細かい改善は随時行っていくと考えておりますので、ご意見ご感想・ご要望などございましたら編集部までお寄せください。

- 1) **SKYLIGHT, EUREKA**, 天球儀に英文概要を追加します。
- 2) 参考文献表の書式を専門論文誌で広く使われている形態に変更します。
- 3) 経費節減のため、目次と雑報・月報だよりなどのページを1色化します。

編集委員 谷川清隆(編集長), 坂尾太郎, 田代 信, 中川貴雄, 中村 士, 濱部 勝, 林 左絵子, 半田利弘
平成6年2月20日 発行人 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内 社団法人 日本天文学会
印刷発行 印刷所 〒162 東京都新宿区早稲田鶴巻町565-12 啓文堂 松本印刷
定価700円(本体680円) 発行所 〒181 東京都三鷹市大沢2-21-1国立天文台内 社団法人 日本天文学会
電話 (0422)31-1359 (FAX自動切換) 振替口座 東京 6-13595